

B20211130_02_TAU

TAU チーム、アルツハイマーの初期兆候を反転

世界中に約 5000 万人の人々が、アルツハイマー病、あるいは他の認知症関連の病気に罹っている。アルツハイマー病は、記憶喪失、認知機能障害となり、高齢者で認知症の最も一般的な原因である。一定の処置が症状の軽減に役立ち、時には病気の進行を遅らせることができるが、現状ではアルツハイマー病を阻止または治す方法はない。

そうした状況の中で、テルアビブ大学の研究者は、その病気の前兆を反転させるプロセスを開発し、新しい予防療法の有望な基礎を示した。これは、非薬物療法が、アルツハイマー病に発展するコア生物学的プロセスの阻止で効果的であることを証明する最初の例である。これは、西欧世界で最大の課題の一つと闘うことができるという希望をもたらす。

アルツハイマーのルート

被験者が高気圧の特殊な部屋で 100%の酸素を呼吸する高圧酸素療法 (HBOT) を使うことで、研究チームはアルツハイマー病の生物学的特徴に関連する脳損傷を逆転することができた。

研究の共同主任、Shai Efrati 教授は、「年齢にともなう認知力低下を起こす根本問題を処置することで、われわれは実際に阻止する方法を策定している」と話している。

一酸化炭素中毒や酸素欠乏で組織を苦しめる感染の治療にも使われることがある高圧療法は、特殊な方法で適用されると、損傷脳組織を修復し、脳の血管や神経細胞を再生することが以前に確認されている。したがって、研究チームは、その潜在力をアルツハイマー病でテストした。

「一連の高圧療法の後、すでに記憶喪失に苦しむ高齢患者が脳の血流改善、認知機能の実地的な改善を示した」と共同研究リーダー、Uri Ashery はコメントしている。

研究チームが考案した新しいアプローチは、一般にアルツハイマー病に関連する特性を明確に改善した。特に、高圧療法の結果は、以下の通りである。

- ・平均 16.5%の患者で記憶改善
- ・血流増の例は 16~23%

- ・患者の **6%**で注意および集中力改善
- ・全ての例で、**10.3%**が情報処理速度改善

アプローチは、まず研究室設定でテストされた。これはアルツハイマーや認知症に先立つ精神機能悪化段階の **65歳以上**の患者のテスト結果を受けたものである。

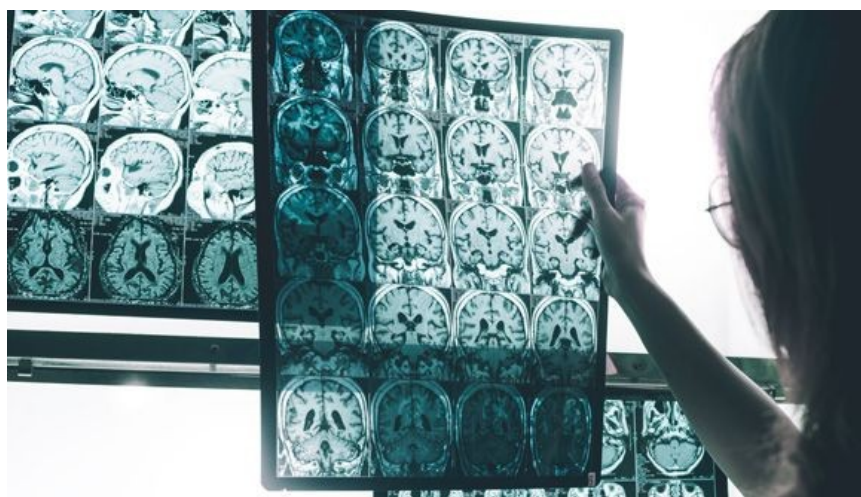


図 1 アルツハイマー病の MRI 画像